

「小樽商科大学応援団第百代を迎えて」

堀井隼斗（小樽商科大学応援団第99代団長 第百代記念式典実行委員長）

私たち小樽商科大学応援団は、平成26年に第百代を迎えました。ここに至るまでには様々な経緯がありました。時代の流れによる団員の減少により、一度は歴史が途絶えてしまった応援団。しかし、このままでは今まで引き継いできた想いや伝統がなくなってしまうと危惧したOBの方々、そして先輩方の尽力により見事復活を遂げました。今、私たちが百代を迎えられるのも、百有余年の間、応援団を支えてくださった偉大な先達の方々がいらっしゃったからこそです。今まで我々と関わり支えてくださった方々に感謝の気持ちをお伝えたい、そして時代の変遷とともに学内の雰囲気も様変わりした商大の「今の応援団」はどのような姿になっているのかを知っていただきたい、そのような想いで私たちはこの百代式典を行うこととし、2年前から準備を重ねてきました。

日時は、10月12日(日)14時30分、場所は、小樽市民会館、学内OBである第98代参謀田口さんの司会により式典は始まりました。緞帳が上がり壇上に応援団がその姿を現しました。客席から沸き起こった300人近い方々の大歓声を耳にした時、改めて「自分たちは百代を迎えたのだ」と感じ胸が熱くなりました。

商大校歌「金鱗おどる」を斉唱した後、私が実行委員長としてご挨拶致しました。多くの皆様の前、そして百代記念の場であるということで緊張はしましたが、尊敬する先輩からいただいた言葉をお話させていただきました。そしてそれは、自分が高校時代に団員となった時から心に刻んでいる、応援団としての目標、指針となっているものです。

「応援団は相手を応援するだけではなく、応援される応援団でなくてはならない」。この言葉に込められたものは、応援団は自分達だけで応援するのではない、決して独りよがり、独善になってはいけないという強い戒めでした。長年胸に秘めていたこの教を披露しましたところ、思いがけず会場から大きな拍手をいただきました。式典後、「立派な挨拶だった」とお褒めの言葉も頂戴することになり、改めて先輩の御教えに感謝致しました。



校歌後の鈴木100代参謀のエール



OBと森100代副団長、新参による胡蝶の舞

式典が始まり、最初の演目は胡蝶の舞でした。今回は第74代副団長八十島さんと現役団員との時代を超えた共演となり、大いに会場を沸かせました。さすがは八十島先輩、扇子を置いてから四半世紀が経つにも拘わらず、舞のキレは衰えていませんでした。

更にこの式典では、積年の念願であった「南蛮踊り」が復活しました。この踊りは女形が対面式の際に踊っていたのですが、団員不足で傳承者がいなくなったことにより、長く途絶えたままでした。百代記念式典を行うにあたり、第50代副団長の渡邊捷弘先輩がはるばる島根県大田市から駆け付けて下さいました。50年前の対面式で実際に舞われた先輩が、直接私たちに稽古をつけてくださり、そのお蔭で南蛮踊りを約30年振りに復活させることができたのです。

商大応援団は1912(明治45)年5月の東北帝大農科大学(現北海道大学)との野球戦を起源としています。当然、会場には北大応援団の団員、関係者が多数お集まり下さいました。彼等を含めた観衆の皆様を前に、団長の檄文では、これからはOBの力に頼らず自分たちの力で団を発展させ自立の

道を進んで行くこと、そしてこれから先 50 年先も 100 年先も応援団の歴史を紡いでいき、次は二百年式典を行うぞ！という心強い内容でした。後輩である百代団長西垣のこの言葉を聞き、時代が変わっても、小樽の雰囲気が変わっても、商大の象徴である商大応援団を絶やすことなく存続させていかなければならない、百年続いてきた商大応援団団長というバトンをこの後何年も何十年も受け継いでいって欲しいと切に思いました。



新参達により復活した南蛮踊り



雲龍型を舞う森副団長と新参

演目も進み、最後に式を締めくくるのはやはり寮歌。今回の式典では北大応援団もゲストとしてお招きしていたので、両校による寮歌交換、団旗エールとなり、百代の式典の最後を飾るに相応しい迫力あるものとなりました。客席からの大きな拍手もさることながら、舞台裏の係員の方からいただいた「商大応援団には感動した、格好良かった」との言葉に感無量の思いでした。



西垣 100 代団長の檄文



100 代団旗長の田中の団旗エール

式典後の大祝賀会は、商大応援団後援会主宰の下、行われました。直接お礼の言葉をお伝えしたいと思い、お越しいただいた方々にご挨拶をして回りました。会場は 150 人近い商大と北大、両校の学生と OB、名誉教授や現役教授など関係者の方々に溢れかえりました。学生と話すことのできる貴重な機会になった、あるいは学生時代に戻られた思いがしたからでしょうか、OBの方々が、本当に生き生きとされていたのが印象的でした。OBの方々が入れ替わり立ち替わり寮歌を歌ったり、前に出てお話しされたりと、会は大変な盛り上がりとなりました。最後には、一同で肩を組み、都ぞ弥生、若人逍遥の歌を歌い閉会となりました。二次会はマルジェ・ナオで行い、夜が更けるまで商大と北大、学生と OB が親睦を深めました。

小樽商科大学応援団第百代記念式典の準備、催行を通して、商大応援団の団員や団の OB だけではなく、団に関わった全ての方々が交流を深められ、その絆を更に強いものにされたように感じます。皆様にとりまして百代式典が、そのような意味と意義のあるものであったとしましたら、これに勝る喜びはありません。

最後に、商大応援団百代記念式典開催にご協力いただきました全ての皆様に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。